臺灣日日新報 (第二版) (明治卅一年五月九日第三種郵便物認可) 昭和十五年二月二十六日 (月曜日) 第一万四千三百五十一號 (一)

臺灣日日新報

本日四頁
編輯兼發行人 佐々木雄一郎
發行所 臺灣日日新報社
東京支社 東京市日比谷神社前
定價 本一部ニ付金五錢 一ケ月前金拾五錢 三ケ月金四十五錢 六ケ月金八十錢 一ケ年金壹圓五拾錢 (日本國內各地郵便料不要)
廣告料 別途協定
特別廣告 一行十字詰 壹圓 一行同 貳拾錢
電話 代表五八〇一 廣告用五八〇二 編輯局二一〇五三 廣告局二一〇八六

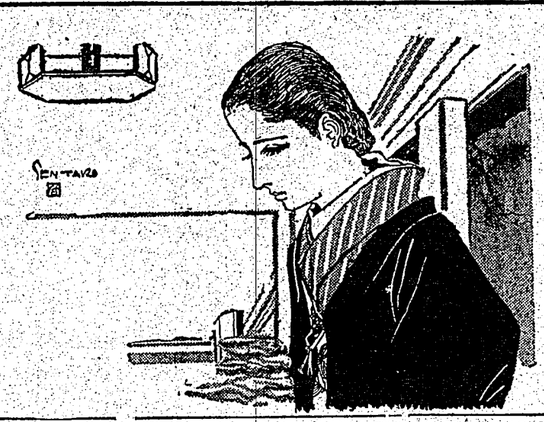
物價統制機構の改革
臨時閣議で急轉解決
商相の大乘的讓歩で
閣議會と
價格形成機關の大綱

【東京二十五日發同盟】物價統制機構改革問題に關し商相原案に對し閣內意見對立の儘十五日午後二時二十分より首相官邸に臨時閣議を開き右問題に就き協議したるも結局物價統制會議を設け商相の大乘的讓歩を以て解決することとなり、その後政府は物價統制會議官制は二長官の手許において原案を作成し、次官會議に附付し、來月々初閣議に附議正式決定し、次に衆議院に於いて原案を法制局に廻

牡丹崩れず（3）

（承前）

竹田敏彦 作
岩田專太郎 畫



凱旋列車（三）

晴れの凱旋の朗報を、大木將軍は、靜寂で小靜かに迎らうとするのだつた。

旅團の將兵に續いて、いよ〳〵に二年有餘の戰塵を洗ひ流した將軍は、さすがに輕々とした風で、驛下に步を運んだが、

「おや……」

立止つて眼を見下した。鄙竝近くの家のやうな花をつけた梅の老樹が、風に搖ぎ上つてゐた。

「御案内致します……」

將軍は、吟ずるやうに呟きながら、二階十二疊の座敷に通つて、縁側に腰を降すと、床の間の大額の一幅と、万歳の投入に眼をやつた。その時、驛下の外から、

「閣下……」

と、まだ兵服の儘の副官、團を出して、

「お客樣でございますが……」

「今夜は誰にも逢はぬと言つておいたが……」

「みんな御祝ひごをりますが、

「取次ぐだけは取次いでくれと申されますので……」

「さうか……」

將軍は、ちらと縁に眼を落したが、

「それではね……遠方わざ〳〵御苦勞やつたが、今夜は公用以外のお客には、お眼にかかれないで濟ぬやうが、大木から宜しくと、それだけ傳へてくれ……」

「はツ……」

副官は縁側を降りて、玄關へ出ていつたが、式台の前には、若い美しい婦人が、慌ましく迎へてゐた。相當の年輩ではあらうが、何やうな氣品高い美貌は、年よりも、ずつと若く見せてゐるに違ひなかつた。副官を見ると會釋もせずに、

「御案内を申しまして、宜しうございますか……」

「閣下に申上げましたが、遠方わざ〳〵御苦勞ですが、今夜は公用以外の方には、お目にかかれないでも、大木から宜しく、との御言葉でありました」

「さうでございましたか」

婦人はほつとしたやうに、切長な眼に美しい微笑を浮はせたが、

「御多用中を有難うございました」

と挨拶には稍らしい感激を表はした。副官も氣輕に、

「あれで、お淺つくりなされまさア」

「さうやも、四十一、二とは見えぬやうやが……」

將軍をわざ〳〵激海まで出迎へた美しい女性は何者だらう……副官の眼には、明かに好奇の色が動いたが、將軍はそれきり散り込んでしまつた。が、暫らくして時計を眺め、

「晩餐のひと頼まう」

副官に呼びかけた。

「一〇ヒゴ、ゴテンヤマタク

（キタレ……澁谷區長川メ參加江島町子やと」

「はツ……」

副官は、につと頭を下げたが、手帳を開んで又ぐ出て行つた。將軍は、再び夜の海に眼を落した。月光は水面にかゞやき、海は銀色の夢を誘へ、うつとり盛つた初島から宇佐見崎の辺りへ、銀めたやうに漁火が流れた。

「あれも一と時、これも一と時、律師、榮華夢の如しやも……しかし偉い女だが寂しからう……」

將軍のやうに獨言して、海を眺め入つた將軍の眼はいつか潤んでゐた。

原子砲製作の問題

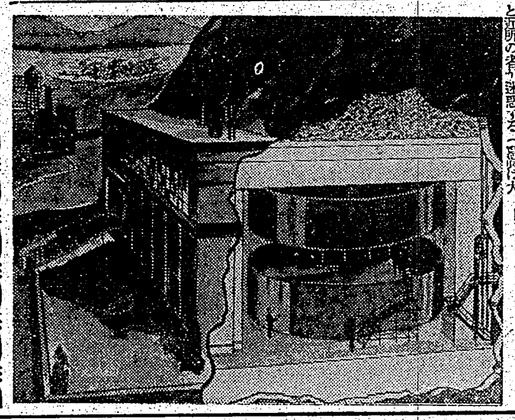
ローレンスの新計劃（上）

そもこの發端は、湯川博士もいつてゐるが如く、原子の鐵材料約一千噸といふ大仕掛のもので、ラヂウムの發見者に比較すれば五十倍も強力な粒子を出し、これによつて原子核の破壞實驗を至極大規模にやらうといふのである。

またこれによつて理論まで實驗室内で宇宙線を人爲的に作つてその秘密を探るとか、原子エネルギーを利用する動力機關の製作とか、又中世期の鍛金術者が夢みた様に人藥の醫藥を滅みるといふやうな御業も可能性が多くなつて來るわけである。

まだ三十八歳といふ若さであるが、實驗室の學者を指導するなかに、ビジネス街に出て行つて原子製作に要する經費約十五万ドル（約三百万圓）の調達に手腕を見せてゐるローレンスの活躍ぶりは驚嘆に値する。今度の實驗は原子核が二千噸、換言にすると三千噸位の重さになるらしいが、それそこに第一回製作の八十噸のもの（八年前完成）と、二噸のものがあつて、從のにまだ數ケ月に出來上つたばかりだのに、すぐもう次の計畫に取掛るあたり、如何にもエキビしてゐて、仕事好きのアメリカ學者らしいところがある

この大サイクロトロンに



使ふマグネットは重さ三十四噸、高さ二十五呎、幅十二呎といふから恐ろしい。從來は頑張つて鐵を巨額きつける鋼鉄だけでも二百七十四トン、破壞する粒子のエネルギー一億ボルト、物凄い數字の羅列である。そしてこの破壞粒子の貫通力の大きいことから色々と實驗完成したらバークレーの大學校舍に近い丘にトンネルを掘つて埋める計畫になつてゐる。さうしないと附近の者に感應する（寫眞は大

批評と紹介

◆ビタミン讀本（內閣印刷局著）ビタミン發見以來、短日月の間に發多の醫學上の謎を解決し得た功績は實に偉大なものがある。健康を保しむ上にはビタミン攝取要なものはない。本書はその各種ビタミンを總合的に解説したもの、ビタミンの發見からABCDE新ビタミンについての常識を述べ、料理とビタミンの關係ビタミンの攝取法にわたり十八章を、要領よく纒述してある。榮養とビタミンの好參考指導書として推奨、著者は田邊三郎助氏等新興部員で、先に「榮養の旅」を出版した人（四六判並製二五八頁一・〇〇東京市日本橋區本町二ノ七健康文化協會）

臺灣銀行新株式第二回（最終）拂込公告

一、拂込金額　一株ニ付金貳拾五圓也
一、拂込期日　昭和十五年三月一日
一、拂込取扱　昭和十五年三月一日開始
一、拂込場所　當行本支店
第一銀行
名古屋、京都、門司各支店

一、期日後ノ御拂込ニ對シテハ延滯利子百圓ニ付一日四錢ノ割合ヲ以テ可申受候也
右御拂込相成度此段公告候也

昭和十五年一月二十六日
株式會社　臺灣銀行

辰馬汽船出帆

辰宮丸　廿五日　高雄發
吳竹丸　廿七日　高雄發

日本郵船基隆出帆

鐵臺灣丸　廿五日　門司、神戸行
第二回（最終）拂込公告　一株ニ付金貳拾五圓也　昭和十五年三月一日　昭和十五年三月十八日　後五時半　後五時半　即十一時　後五時半　後五時半　後五時半

(第三種郵便物認可)　昭和十五年二月二十六日（月曜日）　臺灣日日新報　第一万四千三百五十一號　A（三）

戰爭恐怖症皆無

先天的のものは激增の兆

事變下、精神病の傾向

【東京二十五日發本社特電】東京市大森區大井鹽下町の女給務員の姉妹鉄砲、渋谷の遊と鉄殺し、更に渋谷の酒り廣水作と殺狂めつきり春めいた氣候に前後い**慘劇**が續發しこれと共に不良少年の檢行など何れも精神病者、變質者、精神鑑定問題に關係問題があるものと見られ、其の鑑定を叫ばれてゐる、精神病者は殺人として檢事局の檢事局にあるかこの程市立松澤病院へ入院收容の廣味ある統計が原生省に發表された、それによると國國院の治療を受けた新入院者は大正元年から昭和十二年までの十年間で計四千三百六十三人で原因から別けると、先天的**原因の精神**分裂病が平均五三・五パーセント、後天的の麻痺性痴呆は二五・八パーセントと、前者が總數の半ば以上を占め更に昭和五年から十四年迄の三千四百六十人に就ては前者は四五・三パーセントを增し、後者は一九・三六パーセントを占へ、四四パーセントの減少を見た、つまり一般の發想を裏付つて種族を主因とする麻痺性痴呆が治療法の進歩と共に減少の途を辿り、先天的體質的なものが際外に增加してゐるわけである、この**傾向**は全國共通の現象で民族保健問題等に深刻な影響を與へてゐるが、この度の兵役に際し一般精神恐怖から來る精神病は皆無であつた

福建で活躍する建國軍

とボートに乘り移る建國軍の精鋭

㊀福建省○○に上陸進撃を開始した建國軍の精鋭・㊁福建省○○に上陸せんとする

建國の尊き犧牲者

日系軍官達を顯彰

滿洲國各地に記念碑建立

【新京廿五日發本社特電】滿洲國建國の礎石として二國旗の下に戰ひ斃つた日系官吏の顯彰が今回迄の各地擧つての不統一の努力を排けてゐる政府の手に依つて行はれつつある、第一軍管區の日系官吏はその犧牲するべき國家初の二十三日後四時滿洲國軍の長城北西方面に於て殪斃された包頭攻略の結果、團隊は「包頭占領」の報に接するや直ちに軍司令官以下參謀長、副官、參謀、副官等は參謀長の指揮の下に包頭に向ひ、二十五日午前十時包頭城内に入城式を擧行、引續き城内の忠烈祠に參拜、英靈に對し謹んで感謝の意を表した、尚ほ包頭攻略戰に於ける日滿軍の戰死者は將校十五名、下士官兵百二十名、負傷者は將校十二名、下士官兵二百名に上つてゐる

治安攪亂の元兇

楊靖宇を射殺

通化省の高地で包圍攻撃

【新京二十五日發同盟】滿洲國治安攪亂の最大元兇と云はれた共産指導者楊靖宇は通化省臨江縣四道溝の東方約十五粁の地點に於て二十三日午後二時半頃討伐中の滿洲軍警部隊の爲に射殺された、楊靖宇は吉林省出身の朝鮮人で滿洲事變勃發後東北人民革命軍第一路軍總司令として活躍、抗聯の爲に奮戰すること十數年、その間數次に亘り討伐隊の爲に包圍されたが、その都度巧みに脫出し、或は地下に潛入して再起を計つてゐたもので、昭和十二年度から下匪の討伐に當つた日滿軍警部隊は實に十數萬に及び、その間に數千名の死傷者を出したものである、楊靖宇の射殺は滿洲國治安肅正工作に一大打撃を與へたもので、今後殘存匪團の討伐は一層容易になるものと見られてゐる

歸還兵を慰安

新竹劇場で映畫會

【新竹電話】國境新竹州分會では新竹劇場に於て皇軍の勇士の武勳を映畫に收めた「ガンビラ兵隊」と云ふ題名をもつて同部隊の設營を終へた新竹州分會の映畫會を催した

羊毛を多量に輸入

民需用にも當局の親心

【東京二十四日發本社特電】ス・ト・ックも極度に減少し十五年度には羊毛製品が非常に拂底するものと豫想されるので「國民生活の安定を期するため民需用にも羊毛を輸入する」ことゝなつた、此の羊毛は滿洲國の建設を擧つて喜ぶ滿洲國の羊毛を輸入するやう企劃院と交渉中である

重慶側を脫出した

更生の捕虜僞縣長

新中國建設に活躍

迷夢から醒めて新しき建國の理想に燃ゆる一人の男がある、物語の主人公は去る一月十四日皖南線の孫破東北方五粁地點の激戰の際に重慶側から脫出して來た僞縣長閻文佐（二七）と昨秋以來行方不明となつてゐた共産黨の一女性である

金の使用規則を更らに改正強化

金使用規則の內容

【新京二十五日發同盟】滿洲國政府は昨年十二月二十六日附勅令第二十四號を以て金の使用に關する規則を公布、即日施行した、改正規則の內容は一月二十六日附勅令によつて發表されたいが改正の要旨につき財務局では左の如き骨子を發表した

金を用ひた製品の製造及物の加工、修繕の爲に金を使用することは當分の內緊急用として必要日數の許可なくしてこれを製し得ないことは改正前と同樣であるが

㈠、金製品、金裝品、金箔、金粉、金線、金糸、金糸合物及之等を用ひたる製品は當分の內緊急用として必要日數の許可なくしては金を用ひたる製品は製造若しくは販賣又は金の品位の如何を問はず金製品、金裝金線及金糸合物の製造に關する者は之を製造してはならぬ（金糸合物とは金、金糸、金箔、金粉、金線、金裝金線の製造に關して製造するを得ない）

㈡、例外　醫療用としては金を使用する場合は右の例外なるが此の場合と雖も必要日數を超過することは勿論である

㈢、更に原則として

㈠、金製品、金粉、金線、金箔、金裝金線、金糸合物及之等を用ひたる製品は當分の內緊急用として必要日數の許可なくしては製造してはならぬ（金糸合物とは金粉、金線、金箔

新竹市明年度豫算

昭和十五年度豫算を上程する新竹市會は二十六日より三日間の豫定を以て公會堂に開催されるが豫算案内容は次の如くである

歳入の部

△財産收入
△使用料及手數料
△交付金
△雜收入
△市稅
國稅附加稅
國時稅
△國庫補助金
△州補助金
△寄附金
△繰越金
△雜收入
△市債
歳入合計

歳出の部

△議會費
△役所費
△土木費
△都市計畫費
△小學校費
△公學校費
△家政女學校費
△學校費
△警察費
△衞生費
△土木費
△公共團體施設費
△小學校費
△公學校費
△家政女學校費
△實業學校費
△社會事業費
△土地改良費
△都市計畫費
△國民精神總動員費
△公會堂費
△水道費
△公園費
△墓地費
△火葬場費
△屠獸場費
△防空費
△衞生費
△市場費
△公設質屋費
△公設市場費
△公設浴場費
△公設宿泊所費
△公共住宅費
△公債費
△雜支出
△豫備費
歳出合計

第一款　市稅
第二款　使用料及手數料
第三款　財產收入
第四款　寄附金
第五款　繰越金
第六款　雜收入
第七款　市債
計

第一款　議會費
第二款　役所費
第三款　土木費
第四款　都市計畫費
第五款　小學校費
第六款　公學校費
第七款　家政女學校費
第八款　實業學校費
第九款　社會事業費
第十款　土地改良費
第十一款　都市計畫費
第十二款　國民精神總動員費
第十三款　公會堂費
第十四款　水道費
第十五款　公園費
第十六款　市民行業地費
第十七款　墓地費
第十八款　火葬場費
第十九款　屠獸場費
第二十款　防空費
第二十一款　衞生費
第二十二款　市場費
第二十三款　公設質屋費
第二十四款　公設市場費
第二十五款　公設浴場費
第二十六款　公設宿泊所費
第二十七款　公共住宅費
第二十八款　公債費
第二十九款　雜支出
第三十款　豫備費
計

嘉義市

【嘉義電話】昭和十五年度嘉義市歳入歳出豫算を審議する嘉義市會は二十六日より三日間公會堂に於て開催されるが豫算及豫算全額は左の如くである

歳入の部

△人口增加計畫
第一款　財產より生ずる收入
第二款　使用料及手數料
第三款　水道收入
計

歳出の部

△土木費
△小學校費
△公學校費
△家政女學校費
△實業學校費
△國民精神總動員費
△社會事業費
△土地改良費
△都市計畫費
△公會堂費
△水道費
△公園費
△墓地費
△火葬場費
△屠獸場費
△防空費
△衞生費
△市場費
△公設質屋費
△公設市場費
△公設浴場費
△公設宿泊所費
△公共住宅費
△公債費
△雜支出
△豫備費
歳出合計

第一款　公會堂費
第二款　水道費
第三款　公園費
第四款　墓地費
第五款　火葬場費
第六款　屠獸場費
第七款　防空費
第八款　衞生費
第九款　市場費
第十款　公設質屋費
第十一款　公設市場費
第十二款　公設浴場費
第十三款　公設宿泊所費
第十四款　公共住宅費
第十五款　公債費
第十六款　雜支出
第十七款　豫備費
計

高雄飛行場擴張は一期作の收穫後に

それ迄は屏東飛行場を使用

【高雄電話】高雄市會に於ては昨年來問題となつて居た高雄飛行場擴張問題は遂に州當局に於ても一期作米收穫後現在の部に變更する事に決定、愈々大規模飛行場の擴張實施は四月からと云はれ當初一期作米收穫後では間に合はずその間は從來の屏東飛行場を使用する事になつた尙州當局では擴張に要する次の如く聞つた

一期作米の收穫を前にして所要地全部から飛行場の爲の稻を收取る事はどうかと思ふ、これが爲めに飛行場擴張は二、三ケ月遲れる事は現在の計畫に變更のではないのだからそれ程驚くに及ばない

各地の協議會

彰化郡下の協議會終了

【彰化電話】彰化郡下の昭和十五年度出發豫定の青年團協議會は去る十日の初發日を皮切りに順次各街庄で開催、二十四日の田尻庄協議會を終りとして何れも原案通り可決、和氣藹々裡に終了したが豫算額は六十四万七千一百五十七円で前年度に比し六千二百四十七円の增となつて豫算通り二箇を廻つて居る、尙各街庄役場は左の通り

鹿港庄＝三五、三二六円、六、八六六円、和美庄＝二五九、六二四円、二四、三九七円、秤西庄七八、

十四萬圓を起債

臺南市・明年度事業費に

【臺南電話】臺南市の昭和十五年度に於ける起債は總額十四万円であるが、内公學校新設費十二万円中六万円は繰上より四月二十日及び繰町より開山町二丁目に至る道路計畫道路の新設、擴張十三万一千四百七十八円四十三錢、同繰越五万五千三百二十五

正條密植を奬勵

米穀增産の見地から

台中州當局當部では米穀增産を圖る爲め從來の慣習に依る疎植栽培を改め密植栽培を奬勵する